

Market Flash

2020年5月19日(火)

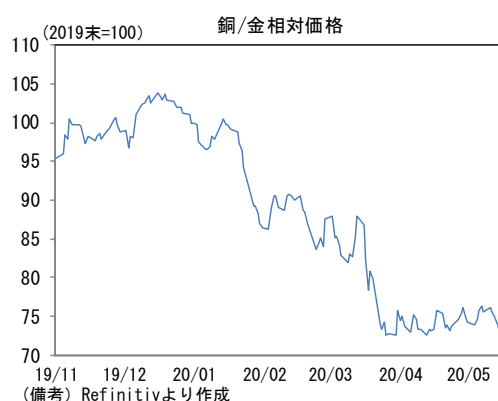
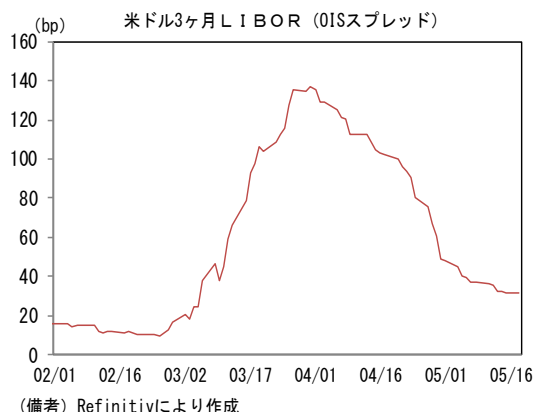
最悪期脱出の初期の兆候をつかむ(米労働市場)

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査
主任エコノミスト 藤代 宏一 (TEL:03-5221-4523)

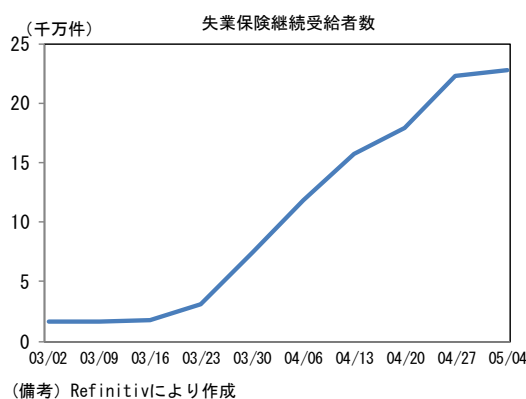
- ・ 日経平均の20,000円超定着には、3ヶ月程度の時間を要するだろう。
- ・ USD/JPYは、先行き12ヶ月105程度で推移しよう。
- ・ 日銀は現在のYCCを長期にわたって維持するだろう。
- ・ FEDはゼロ金利政策下で資産購入を継続するだろう。

< #経済活動経開 #失業保険申請件数 >

- ・ 前日の米国株は大幅続伸。NYダウは+3.9%、NASDAQは+2.4%で引け。米バイオ製薬が新型コロナウイルスのワクチンの初期の臨床試験が良好だったと発表。またパウエル議長が「我々の方策は尽きていない」としたことも材料視された。業種別では航空株、ホテル株が急伸。VIXは29.3へと低下し4営業日ぶりに30を下回った。クレジット市場はIG債(投資適格)、HY債(投機的格付け)が共に堅調。
- ・ 米金利カーブはベア・スティープ。10年は0.726%(+8.3bp)、30年は1.437%(+11.0bp)で引け。パウエル議長が17日のTV出演でマイナス金利に否定的な見方を繰り返し、18日は上院銀行委員会の公聴会の原稿で「現在の金利水準を維持する」とした。短期金融市場ではドル3ヶ月LIBOR(OISスプレッド)の低下が継続。ドル流動性の収縮は概ね收拾しつつある。為替はUSDとJPYの弱さが目立った。USD/JPYは107半ばで一進一退、EUR/USDは1.09前半へと上昇。原油価格上昇を受けてNOK、CAD、AUDなど資源国通貨の強さが目立った。商品はまちまち。WTI原油が32.7ドル(+3.3ドル)へと上昇。中国の原油需要がコロナショック発生前を回復したとの報道に加え、限月交替直前にもかかわらず(期先を含め)価格が安定していることが好感された。銅も5317.5ドル(+136.0ドル)へと大幅に上昇。金は1733.1ドル(▲10.6ドル)へと下落した。安全資産の「金」と景気の強さを反映する「銅」の相対価格は反発。



- ・上述のとおり18日の米国市場ではワクチンに対する期待が高まり強いリスクオン。少人数のサンプルながら良好な結果が得られたという。目先の経済活動再開に対する期待が膨らむなか、およそ半年後に控えている北半球の冬場に対する懸念が後退した形。
- ・足もとでは経済活動を再開した一部の国で感染がぶり返すなど、いわゆる第二波に対する警戒が強い反面、米国と欧州では着々と規制が解除されている。米国ではニューヨークやカリフォルニアといった地域で経済活動再開の機運が高まっており、経済活動は加速度的な回復が予想されている。
- ・そうしたなか、週次で発表される失業保険統計、とりわけ失業保険継続受給者数に注目したい。新規失業保険申請件数は経済活動が制限された直後から爆発的に増加し、現在も異例の高水準で推移しているが、その累積に相当する継続受給者数はここへ来て増加ペースが鈍化しており、前週比での減少も視野に入りつつある（継続受給者数は新規の申請件数から1週間遅れで公表される点に注意）。この数値の反転減少は経済活動再開によって一時的に解雇（≒レイオフ）された労働者が再び職を得たことを示唆する。したがって、失業率低下の初期の兆候として認識される。毎週発表されるこのデータは新規の申請件数がヘッドラインとして取り扱われ、継続受給者数に対する注目度は必ずしも高くはないが、労働市場のトレンド転換を逸早く察知する点において有用である。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

